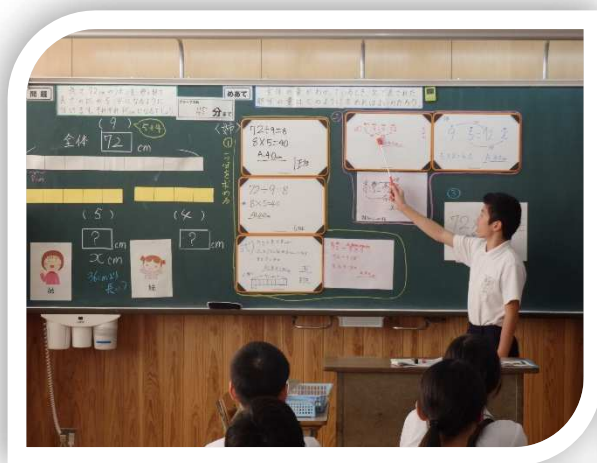


平成 30・31(令和元)年度 鹿児島地区研究協力校「指導方法改善」

研究紀要

研究主題

自分の考えを持ち，伝え合い高め合う子供の育成
～言語活動の充実を通して～



令和元年10月29日(火)

日置市立伊作小学校

目 次

○ あいさつ	日置市立伊作小学校長 西 浩一
I 研究の概要	1
1 研究主題	1
2 研究主題設定の理由	1
(1) 教育の今日的課題から	1
(2) 学校教育目標から	1
(3) 本校のこれまでの研究実践から	2
(4) 本校の子供の実態から	2
3 研究主題について	3
(1) 研究主題のとらえ方	3
(2) 研究で目指す子供の姿	3
4 研究の構想	4
(1) 研究の視点と内容について	4
(2) 研究の構想図	5
II 研究の実際	6
1 主体的・対話的で深い学びの授業の創造	6
(1) 基本的指導過程	6
(2) 学習のしつけの定着	6
(3) ユニバーサルデザインの導入	7
(4) 言語活動の工夫	8
(5) ICT機器や教材の活用	13
(6) 基礎的基本的事項の定着	14
(7) 授業実践例	16
ア 実践① 第3学年 国語科授業実践例	16
イ 実践② 特別支援学級 生活単元学習授業実践例	18
ウ 実践③ 第2学年 算数科授業フレッシュ研修実践例	20
2 学習環境の整備（家庭学習を含む）	22
(1) 実態調査の実施	22
(2) 学力テスト等の結果分析と対応	24
(3) 授業外における言語活動の充実	25
(4) 読書活動の充実	26
(5) 家庭学習の充実	27
(6) 基本的生活習慣の定着	28
(7) 発表話型，板書カード，接続語カードの作成	29
3 校内研究体制の確立	30
(1) 模擬授業	30
(2) ワークショップ型授業研究	30
(3) 「学びの組織活性化」推進プロジェクト実践校としての取組	31
III 研究の成果と課題	32
○ 参考文献 研究同人・旧研究同人	

あいさつ

日置市立伊作小学校長 西 浩一

本校は、本年度、創立150周年並びに吹上小・野首小・藤元小・平鹿倉小が統合して35周年を迎えます。夏にはウミガメの卵の保護と子ガメの放流、冬には「日新公いろは歌」かるた取り大会の実施など特色ある教育活動を積極的に行っています。

さて、本校の最重点課題の一つは、学力向上です。平成28年度の全国学力・学習状況調査や鹿児島学習定着度調査、標準学力検査CRTの結果などから、特に活用する力が十分でないとともに、学力の下位層の子供が多いことがわかりました。また、まじめに努力はしているが自信を持って発表する子供が少ないという実態もありました。

そこで、平成29年度から「自分の考えを持ち、伝え合い高め合う子供の育成 ～言語活動の充実を通して～」という研究主題の下、研究実践に取り組み始めました。研究をさらに充実させるために、昨年度から2年間、「鹿児島地区研究協力校（指導方法改善）」として委嘱され、「主体的・対話的で深い学びの創造」、「学習環境の整備」という二つの視点で研究に取り組むことにしました。また、昨年度は「平成30年度『主体的・対話的で深い学び』の実現による学力向上プログラムに係る『学びの組織活性化』推進プロジェクトの実践校」にも指定され、県教育委員会や鹿児島教育事務所、日置市教育委員会の支援をいただきながら組織的かつ総合的な学力向上に向けた取組を併せて行うことになりました。このことについては研究の視点3として、効率的で望ましい「校内研究体制の確立」をめざすことにしました。

研究を推進するに当たり、研究実践校や先進校の理論や資料等を参考にしながら本校なりの理論を構築しました。そして、研究授業を積み重ね、指導主事の先生方に指導助言をいただき、理論の検証と授業の充実を図ってきました。また、県総合教育センターの短期研修講座や移動講座、県内だけでなく県外各小学校の研究公開等に積極的に出席して研究を深めていきました。さらに、9月には明星大学教授（前筑波大学附属小学校教諭）の白石範孝先生をお招きし、本校児童に授業を行っていただくとともに授業づくりのポイントを具体的に指導していただきました。また、表現力等の向上をめざすために、テーマ日記や新聞への投稿など自分の考えを書いて伝える場を設定したり、学校行事や集会活動等において児童の発表の機会を増やしたり、リーディングバディやボランティアによる読み聞かせなど読書に親しむ活動を工夫したりしました。そのほか吹上中学校区小中一貫教育の充実をめざした取組とも連動させ、保護者の協力もいただきながら家庭学習の充実や基本的な生活習慣の定着など学校・家庭・地域が一体となって取り組んできました。

研究が進み授業が改善されるにつれ、児童が自分の解答方法を進んで発表したり活発に意見交換するようになってきました。また、各種学力調査の結果はまだまだ十分ではありませんが、テストに粘り強く取り組み無答が減るなど意欲の高まりを感じます。さらに、学校行事だけでなく地域の行事等にも積極的に応募・参加したり、新聞に投稿したり、長期休業中の自由研究に熱心に取り組んだりするなど、自信を持って意欲的に行動する子供が増えてきました。

本日は、これまでの研究成果の一端を発表する機会をいただきました。授業研究では皆様から忌憚のない御意見をいただき、活発な研究協議がなされることを期待いたします。そして、授業研究や全体会でいただいた貴重な御意見や指導助言を今後の研究に生かして授業の充実に努め、自分の考えを堂々と発表・意見交換できる子供の育成や学力向上に全職員で努めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、これまで研究推進や本日の研究公開のために御指導・御助言を賜りました鹿児島県教育委員会、鹿児島教育事務所、日置市教育委員会をはじめ、関係者の皆様と本日御出席いただきました皆様に心からお礼申し上げます、あいさつといたします。

I 研究の概要

1 研究主題

自分の考えを持ち、伝え合い高め合う子供の育成
～言語活動の充実を通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

今日、核家族化が進み、一家族当たりの人数が少なくなっている。以前のように3世代以上で生活したり大勢の兄弟姉妹の中でもまれたりする機会が減り、親の注意が子供に集中しやすくなっている。これは、よいことでもある反面、あまりにも目が届きすぎて「子供が言わなくても大人に分かってもらえる」ことや「大人が子供の考えを先読みしてしまう」ことにもつながっている。そのため、家庭では、子供が積極的に自分の気持ちや考えを家族等に伝えたり話し合ったりする機会が減ってきているといえる。学校においても、言葉を尽くして相手を説得したり、議論をしていく中でお互いのよさに気づき、より高い価値観を作り上げていったりすることが苦手な子供が増えている。

また、これからの時代は、グローバル化の進展や人工知能（AI）の飛躍的な進化等により、社会が大きく急速に変化し、予測困難な時代となってきた。このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に関わり、様々な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決をめざし、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。

平成29年度に告示された新学習指導要領では、児童の生きる力を育むために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実をめざすことを求めている。その際、子供の発達の段階を考慮して子供の言語活動など学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、子供の学習習慣が確立するよう配慮すること、と述べている。

そこで、子供自らが主体的に課題に取り組み、他者と協働していく中で自分の思いや考えを持ち、言葉によって伝え合い、高め合うことができる子供の育成をめざす授業づくりが重要であると考えた。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は、次のとおりである。

主体的に学び、心豊かで、心身ともにたくましく、夢実現をめざす伊作っ子の育成
[目指す子供の姿] 【い】一生けんめい学び、考える子
【ざ】最高にやさしく、思いやりのある子
【く】苦しさに負けない、たくましい子

そこで、この具現化をめざすために、自ら積極的に思いや考えを持ち、伝え合い、さらに自分の考えを深めていくような活動を、学校教育活動全体を通して日々取り組む必要があると考えた。

(3) 本校のこれまでの研究実践から

本校では、平成27年度から2年間、日置市「チェスト行けひおきっ子」事業において市研究協力校として体育科の研究に取り組み、技のポイントを見つけて教え合い、お互いに高め合っていく活動を積み重ねてきた。

平成29年度は、「自分の考えを持ち、伝え合い高め合う子供の育成 ～言語活動の充実を通して～」という研究主題の下、視点1「教科等における言語活動の工夫」、視点2「豊かな表現力を育む言語環境の工夫」という二つの研究の視点を立て、確かな学力を身に付けるために、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成などをめざしてきた。

平成30年度からは、2年間、鹿児島地区研究協力校（指導方法改善）の委嘱を受けると同時に、平成30年度「主体的・対話的で深い学び」の実現による学力向上プログラムに係る「学びの組織活性化」推進プロジェクトの実践校にも指定され、重ねて研究実践を進めることとなった。一年次の研究では、視点1「主体的・対話的で深い学びの授業の創造」、視点2「学習環境の整備」、視点3「校内研究体制の確立」という三つの研究の視点を立て、毎時間の授業、学習環境や家庭学習の充実などの研究実践を積み重ねてきた。また、「学びの組織活性化」推進プロジェクト実践校として、教科や教科外における言語活動の工夫や研究の視点を踏まえた研究授業とワークショップ型の授業研究を行い、成果と課題を明らかにしてきた。

今年度は、これまでの研究実践をもとに、さらに伝え合い高め合う活動を充実させ、学力を向上させることをめざして研究に取り組むことにした。

(4) 本校の子供の実態から

本校の子供の実態として、低学年では読んだり書いたりすることも、聞いたり話したりすることにも意欲的であるが、学年が上がるにつれて聞いたり話したりすることより、読んだり書いたりすることを好む傾向が強くなる。そのため、自分の思いを積極的に伝えようとする子供が少なく、発表の声も小さく、表面的な理解にとどまってしまうことがある。そこで、物事の本質を追究し、より深い学びを得るためには教師－子供という2方向の学びだけではなく、子供－子供－子供－教師－子供・・・といった多方向へ展開していく豊かな学習活動が必要であると考えます。

また、本校では2人の特別支援教育支援員による支援を受けている子供が40人以上いるなど配慮の必要な子供が多い。隣同士やグループで話し合うなどの活動があることは、定着に時間がかかる子供には学級やグループなどへの所属感を高め、学習への意欲を引き出すことにつながる。高い学力を持っている子供たちにとっても、先入観や思い込みにとらわれず、自分の考えを再検討したり他者に説明したりする活動を仕組むことができ、どちらにとっても学習内容を深く理解する機会になる。

さらに、児童会活動などで、与えられた仕事はできるが、自分たちでアイデアを出し合って計画を立てたり、それを粘り強く実践したりしていくという、主体的な活動があまり見られないという課題もある。そのため、教科等だけでなく特別活動などにおいても企画立案、司会や進行、感想の発表などの場を意図的に与える必要があると考える。

生活面でも、子どもたちはコミュニケーション能力の不足によって引き起こされる問題を多く抱えている。偏見や思い込みがトラブルの原因となり、ちょっとした話合いで解決できる問題も多い。伝え合い高め合う学習を通してコミュニケーション能力も高めたい。

平成29年度の全国学力・学習状況調査の結果をみると、国語、算数ともに全国平均を下回り、特に活用に関しては下位の子供が多く、平均点も大きく下回っている。長文の

読み取りや記述問題を苦手とする子供が多いことが分かる。ただ、無答者が少なかったり地域行事等に積極的に参加していたりするなど長所もみられる。鹿児島学習定着度調査の結果をみると、国語は県平均並であるが、算数と理科は基礎・基本、思考・表現ともに下回っている。C R T学力検査の結果をみると、低学年ではどの教科や領域も全国平均を大きく下回ることはないが、中学年以上になると教科や領域によっては全国平均を下回るものもみられる。特に国語では「読むこと」について課題がみられ、他教科においても問題の読み間違いなどが多くみられた。

このような子供の実態から、どの教科等においても主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、自分の考えを持たせ、伝え合い高め合う活動を通して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むことが重要であると考え。また、学習支援の必要な子供が多いという実態も踏まえて特別支援教育の視点も加えた研究実践が必要である。

3 研究主題について

(1) 研究主題のとらえ方

本校では、研究主題及び副主題について、次のようにとらえている。

ア 「自分の考えを持ち」とは

子供が問題や課題に出会ったとき、問われていることを把握し、既習事項や生活体験などこれまで学んだことを生かして、試行錯誤しながら解決方法や答えなどを自分なりに持つこと。この段階を通して、受け身ではなく能動的、主体的・意欲的な学習態度になっていくと考える。

イ 「伝え合い」とは

ペアやグループ、全体の場において、自分の考えを述べるとともに相手の考えに耳を傾け、多様な意見を交流したり、発信したりすること。この段階を通して、コミュニケーションを行うために必要な表現力や語彙力などスキル面が向上するとともに、よりよい人間関係を築くことにつながると考える。

ウ 「高め合う」とは

問題や課題を解決するためには、どの考えがより適しているのか意見を出し合い、比較・分類・整理したり広げたり深めたりして考えをまとめ、答えを導いていくこと。この段階を通して、自己有用感や達成感を味わい、自分に自信を持つとともに、相手の立場や思いを理解し、共感する心も育っていくと考える。

エ 「言語活動の充実」とは

全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力の育成を図るため、国語科を要として学校教育活動全体において言語活動の充実を図る。そのためには、適切な言葉遣いや話し言葉、丁寧な文字、正しい文章、好ましい人間関係など言語環境を整えたり、各教科等において論理的な説明、話し合い活動、問題解決の手順に係る学習活動、分析、考察、多様な表現活動、想像、共感、書く活動などを積極的に取り入れたりしていく。併せて、6年生と1年生によるリーディングバディの継続、学校図書館の積極的な利用等を通して読書活動を充実させたい。

(2) 研究で目指す子供の姿

研究主題や副主題に基づき、本研究において目指す子どもの姿を4ページのようにとらえ、イメージ化した。



4 研究の構想

(1) 研究の視点と内容について

研究主題の具現化を図るために、本校では次の三つの研究の視点を設定した。

視点1 主体的・対話的で深い学びの授業の創造

学校教育目標や研究主題の具現化を図るためには、毎時間の授業の改善・充実が最も大切であると考えます。

視点2 学習環境の整備（家庭学習を含む）

子供の実態把握や学力検査結果等の分析、授業だけでなく学校教育全体による取組、家庭学習の充実や基本的な生活習慣の定着など学習環境の整備も大事であると考えます。

視点3 校内研究体制の確立

県教育委員会や鹿児島教育事務所、日置市教育委員会等の指導助言をいただきながら、効率的で望ましい校内研究体制づくりをめざしていく。

次に、視点ごとに研究内容を設定したが、詳しくは5ページの(2)研究の構想図「校内研究の全体構想」を参照されたい。

(2) 研究の構想図

校内研究の全体構想

学校教育目標

主体的に学び、心豊かで、心身ともにたくましく、夢実現をめざす伊作っ子の育成

学校経営方針 1

一人一人に「確かな学力の定着」を図る授業の実践を行う。

「子供の実態」「授業等の課題」「保護者の願い」「これまでの校内研究」「今日的課題など」

研究主題

自分の考えを持ち、伝え合い高め合う子供の育成
～言語活動の充実を通して～

育てたい資質・能力

基礎的・基本的な知識や技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力

研究でめざす授業像

子供が、本授業で、何を、何のために行うのか見通しを持ち、自分の考えを持って話し合い、考えを深化・修正し、まとめ、振り返り、分かる（できる）ようになる授業

視点1 主体的・対話的で深い学びの授業の創造

- 1 基本的指導過程の作成
- 2 学習のしつけの定着
- 3 ユニバーサルデザインの導入
- 4 言語活動の工夫
 - ・接続語の活用
 - ・辞書の活用
 - ・板書の工夫
 - ・ペア学習、グループ学習
 - ・発表方法の工夫
- 5 ICT機器や教材の活用
 - ・コンピュータやインターネット等
 - ・デジタルコンテンツ
 - ・統計資料や新聞、視聴覚教材
 - ・視聴覚機器
- 6 基礎的・基本的事項の定着
 - ・かがやきタイムの工夫
 - ・少人数指導・個別指導
 - ・テスト等を生かした指導

理論研究班を中心に

視点2 学習環境の整備（家庭学習を含む）

- 1 実態調査(アンケート)の実施
- 2 学力テスト等の結果分析と対応
- 3 授業外における言語活動の充実
 - ・作品掲示
 - ・テーマ日記、短文作り
 - ・「若い目」等への投稿
 - ・1分間スピーチ
 - ・学校行事等における発表
- 4 読書活動の充実
- 5 家庭学習の充実
 - ・家庭学習の手引き
 - ・家庭学習強調週間の充実
 - ・ホームチャレンジ
 - ・学習習慣チェック
- 6 基本的生活習慣の定着
 - ・キラキラスマイル週間の実施
- 7 発表話型、板書カード、接続語カードの作成

環境整備班を中心に

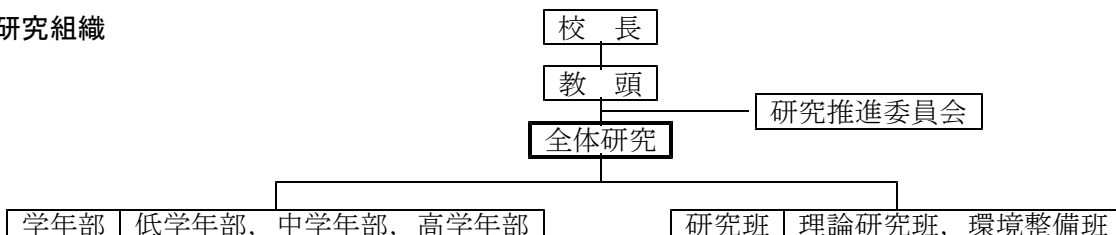
視点3 校内研究体制の確立

- 1 模擬授業の実施
- 2 ワークショップ型授業研究
- 3 「学びの組織」活性化推進プロジェクト実践校としての取組

研究計画

1年次	○昨年度の研究に基づいた本研究の全体構想作成 ○理論研究の深化 ○各学級における授業実践 ○検証授業の実践（6月3年、9月情緒学級、11月6年） ○学習環境の整備（家庭との連携も含む） ○「学びの組織」活性化推進プロジェクト実践校としての取組
2年次	○1年次の研究の成果と課題に基づいた研究の修正 ○各学級における授業実践 ○検証授業の実践（年2回ほど） ○学習環境の整備（家庭との連携も含む） ○研究公開（10月29日） ○2年間の研究のまとめ（成果と課題）

研究組織



II 研究の実際

1 主体的・対話的で深い学びの授業の創造

(1) 基本的指導過程

子供が主体的に学習を進めていくためには、「学び方」の学習が重要になってくる。「学び方」は、繰り返し学ぶことによって、身に付いてくる。

そのために、本校では、指導過程をマニュアル化し、全学年で共通理解・実践することで、子供にとっても授業の見通しを持ちやすく、学習を進めやすくできるようにした。

過程	基本的な学習過程	指導の手立て
つ か む ・ 見 通 す / 調 べ る / ま と め る / 振 り 返 る	1 前時までの学習を振り返り、 学習課題を受けとめる。	○ 子供が問題意識を持つ手がかりとなるような課題，既習事項とずれが生じるような課題を提示する。
	2 本時のめあてを確認する。 ※ 教科等によって、「めあて」「学習課題」等，文言を考慮する。	○ 子供の問題意識を焦点化し，まとめを意識しためあてを設定する。 ○ 解決方法や結果，時間の見通しを持たせる。
	3 自力解決を図る。	○ 考えの根拠や理由を明確にさせる。
	4 相互解決を図る。 (1) ペア・グループ学習等を行う。 (2) 全体で確認する。	○ 互いの考えを伝え合ったり，比較・検討したりさせる。 ○ 友達の考えのよさを見つけさせ，よりよい考え方に高めさせる。
	5 本時のまとめをする。 ※ 可能な限り，子供が高め合う中から出てきた言葉を生かしながらまとめる。	○ めあてとまとめの整合性を確認させる。 ○ 学習したことを振り返り，解決したことを明確にする。
	6 本時の学習を振り返り，次時への見通しを持つ。	○ 練習問題に取り組みせることで，学習の振り返りを行うと同時に，学習内容の確実な定着を図る。 ○ 次時の学習を知らせる。

(2) 学習のしつけの定着

例年4月に子供・保護者に「学びのやくそく」を配布し，説明を行っている。「学びのやくそく」は学年の系統を考え，1・2年生用，3・4年生用，5・6年生用

を作成している。その内容は、学習準備や学習用具、机の上の整理など、授業中の基本的な学習習慣を身に付けることをねらいとしている。

いざく こ まほ
伊作っ子の「学びのやくそく」



ひまわりつりいざくしょうがっこう
日置市立伊作小学校

	1・2年生 (低学年)
学習準備	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間はつぎの授業のじゅんぴ(きょうかしよやノート、ふでばこの学習用具をつくのえの上においておく)をして休みましょう。 休み時間に、トイレをすませておきましょう。 チャイムがなったら、席について、きょうかしよなどをよんでまちましょう。
基本的な学習用具	<ul style="list-style-type: none"> きょうかしよ、ノート、下敷き(紙、ビニル製)、えんぴつら本(2B)、けしゴム(白色で、においのないもの)、茶えんぴつ・青えんぴつ、じょうぎ、はさみ、のり、セロテープ、色えんぴつ(クレパス、クービー)、ものさし(2年)
机の上	<ul style="list-style-type: none"> きょうかしよは左がわ、ノートは右がわ、必要なえんぴつなどはノートの上にもるえておいておきましょう。 必要なものをとりだしたふでばこは、つくのえの中にしておきましょう。
発表の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」と言って、手をまっすぐあげましょう。(「はい」は一回だけ) 指名されたら「はい」とんじをし、いすのよこに立ちましょう。
学習態度	<ul style="list-style-type: none"> 授業中はおしゃべりをしたり、手遊びをしたりしません。また、むやみに席を立つたりしません。 すすんでほっぴようしましょう。 せすじをしっかりとのぼし、きょうかしよやノートから目をはなしましょう。
話し方	<ul style="list-style-type: none"> 声のチャンネル(声のものさし)に気をつけましょう。 「…です。」「…ます。」「…だとおもいます。」と、さいごまできちんと話しましょう。 わけをつけくわえたり、友だちの考えをとり入れたりして話しましょう。
聞き方	<ul style="list-style-type: none"> 聞き方(3つのやくそく) → あいてちみで聞く、いいせいで聞く、終わるまできちんと聞く 話を聞いて「なるほど」と思ったら、うなずき・はくしなどをしましょう。 友だちの考えをひやかしたりわらったりしません。
書き方	<ul style="list-style-type: none"> 正しいえんぴつのもち方を覚えましょう。 足をしっかりとゆかにつけ、せすじをのぼして書きましょう。

いざく こ まほ
伊作っ子の「学びのやくそく」



ひまわりつりいざくしょうがっこう
日置市立伊作小学校

	5・6年生 (高学年)
学習準備	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間は次の授業の準備(教科書やノート、筆箱等の学習用具を机の上に置き、鉛筆を削っておく)をして休む。 休み時間にトイレも済ませておく。 時計を見て行動し、チャイムの前には席に着き、自分で考えて学習して待つ。
基本的な学習用具	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、ノート、下敷き(紙、ビニル製)、鉛筆6本(2B~HB)、消しゴム(白色で、においのないもの)、赤・青鉛筆(またはカラーペン2色)、直定規、はさみ、のり、セロテープ、色鉛筆(クレパス、クービー等)、三角定規、分度器、コンパス
机の上	<ul style="list-style-type: none"> 教科書は左側、ノートは右側、必要な鉛筆類はノートの上にもるえて置いておく。 必要なものを取り出した筆箱は、机の中に入れておく。
挙手立ち方	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」と言って、手を真っ直ぐ挙げる。(「はい」は一回だけ) 指名されたら「はい」と返事をし、椅子の横に立つ。(椅子は机の下に入れない)
学習態度	<ul style="list-style-type: none"> 授業中は私語をしたり、手遊びをしたりしない。また、むやみに席を立たない。 進んで発言・発表する。 背筋をしっかりと伸ばし、教科書やノート等から目を30cm以上離す。
話し方	<ul style="list-style-type: none"> 声のチャンネル(声のものさし)に気をつけて話す 順序を考えて話す。 相手の話の内容を受けて話す。 筋道を立てて話したり、根拠づけて話したりする。
聞き方	<ul style="list-style-type: none"> 聞き方「あいさとお」(5つの約束) → 相手をみて聞く、いい姿勢で聞く、うなずきながら聞く 鉛筆でメモをとりながら聞く、終わるまできちんと聞く 友だちの考えと自分の考えを比べながら聞く。 大事なことはどこで、いくつあるか考えながら聞く。 必要に応じてメモをとる。
書き方	<ul style="list-style-type: none"> シャープペンシルは使わない。(持っていない) 足を床につけ、背筋を伸ばして書く。

(3) ユニバーサルデザインの導入

本校では、教育におけるユニバーサルデザインを、「学級全員の子供たちが『わかる・できる』授業」のことと捉えている。

鹿児島県総合教育センターでは、「ユニバーサルデザインの授業」について、

- ① 授業のユニバーサルデザイン
 - ・ 授業で教えるときの工夫
- ② 教室環境のユニバーサルデザイン
 - ・ 掲示物等の物理的なもの
- ③ 人的環境のユニバーサルデザイン
 - ・ 友達や学級の関係性のいい雰囲気、教師の関わり方や適切で分かりやすい言葉掛け

の3つの視点で整理し、チェックリストを作成している。

項	目	評価
授業の流れの工夫		
1	学習の準備や机上整理など、授業のルールを明確にし、学校で統一している。	4 3 2 1
2	前時の学習を振り返るときに、児童生徒が答えやすい選択式などの質問をしている。	4 3 2 1
3	導入で、フラッシュカードを声に出して読ませたり、短時間で読まれる復習問題に取り組ませたりして、気持の切り替えを促したり、集中させたりする工夫をしている。	4 3 2 1
4	授業の流れを示したり、教科や単元に応じて授業の進め方を一定にしたりして、見通しをもたせている。	4 3 2 1
5	適宜、机間指導を行い、児童生徒のつまずきを把握したり、配慮が必要な児童生徒に対する指導・支援を行っている。	4 3 2 1
教師の説明や指示の工夫		
6	説明や指示を簡潔にしたり、抽象的な言葉を少なくしたりして、分かりやすく話している。	4 3 2 1
7	「○○してはいけません。」ではなく、「○○しましょう。」のように、肯定的な指示をすることで、行動の内容を分かりやすく促している。	4 3 2 1
8	大事なことを伝える前に問をとったり、語調に変化を付けたりすることで、児童生徒の注意を促している。	4 3 2 1
9	言葉による説明や指示だけでなく、視覚的な情報も併せて提示している(図、写真・絵カード、文字カード等)。	4 3 2 1
10	児童生徒の発言や取組を肯定的に受け入れ、主体的・意欲的な授業への取組を促している。	4 3 2 1
11	適宜、発問や指名をすることで、児童生徒に適度な緊張感をもたせている。	4 3 2 1
掲示の工夫		
12	授業に直接関係のない連絡事項等は小黒板を利用し、広く黒板を使えるようにしたり、黒板を常にきれいに拭いたりしている。	4 3 2 1
13	黒板周りの掲示物を精選したりカーテン等で隠したりして、黒板に注目しやすくしている。	4 3 2 1
14	文字の大きさや行間に配慮して書くとともに、チョークの色は主として白色や黄色を使って書いている。	4 3 2 1
15	大切な内容は、色で強調するだけでなく、アンダーラインを引いたり、枠で囲んだりしている。	4 3 2 1
16	めあてやまとめを書く場所を固定化したり、黒板を分割したりしている。	4 3 2 1
17	電子黒板やデジタル教科書など、ICTを活用し、必要に応じて拡大したり、注目すべき所を示したりしている。	4 3 2 1
18	学習で使うプリントやワークシートは、読みやすく書きやすいように工夫している。	4 3 2 1
活動の工夫		
19	児童生徒が見たり、聞いたりするだけでなく、実際に操作したりする活動を取り入れるなど、いろいろな感覚を使った活動を設定している。	4 3 2 1
20	児童生徒が主体的に活動できるように、座っている学習だけではなく、教材を配らせたり、グループやペア学習をしたりするなどの工夫を行っている。	4 3 2 1

《鹿児島県総合教育センター指導資料より》

「チェックリスト」

ここでは、特別支援学級で行っている授業から、通常学級の授業にも生かせると考えられるものを、上記の三つの視点をふまえてまとめた。

ア 「授業のユニバーサルデザイン」

教育環境の基礎として、一人一人のニーズに合わせた細やかな配慮を行っていくことが望ましい。子供に興味・関心を抱かせ、主体的な活動ができるような工夫が必要で、教師は児童の理解度に合わせ、言葉掛けや教材・教具の提示の仕方、

指導の内容等を柔軟に工夫することが大切である。



「視覚情報を多用した学習の流れの説明」



「ICT機器や具体物の活用」

イ 「教室環境のユニバーサルデザイン」

授業に集中できる環境をつくる工夫が大切である。教室前面，黒板周辺や教師の机周辺をすっきり整理することで，子供の集中力が高まり，学習に集中することができる。また，学級や学習のルール等，必要な情報を掲示することで快適に学校生活を送ることができる。



「机上の整理と情報の後方掲示」
(机の横に荷物を置く台を準備)



「色分けされた時間割」
(特別支援学級での教科に印)

ウ 「人的環境のユニバーサルデザイン」

教師が，肯定的でより具体的な言葉掛けを行うことで，子供が理解し活動しやすくなることや子供同士が「支え合う，学び合う」学級環境を育てることが大切である。学級経営では，お互いのよさを認め合う雰囲気づくりに努めたい。



「子供同士の支え合う姿」



「お互いのよさの認め合い」

(4) 言語活動の工夫

ア 接続語の活用

自分の考えを順序立て，整理させるために接続語の活用を行っている。このことは，発表の時に，相手に分かりやすく伝えることにつながっている。

(ア) 低学年部

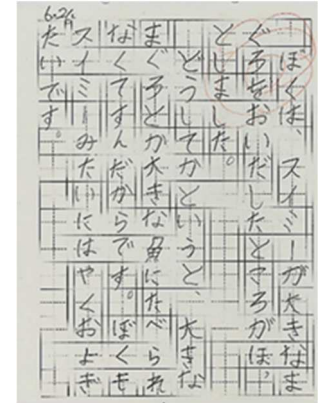
教室に大切な言葉を掲示したり，短冊にして授業で黒板に貼ったりして活用している。絵日記や日記で接続語を使用することができる子供が出てきた。



「簡単な接続語の掲示と授業での活用」

順序を表す言葉「はじめに」「次に」「最後に」などを、発表するときに使っている。

また、理由を述べるときの「どうしてかという（なぜなら）～からです。」などを使って、作文を書くことができる子供も増えてきた。



「接続語を使った作文」

(イ) 中学年部

接続語を視覚情報として掲示し、授業でも活用している。

- ・ 順序を表す言葉
- ・ 理由を表す言葉
- ・ 仮定する言葉
- ・ 反論する言葉



「まほうの言葉（接続語等）の掲示」

(ウ) 高学年部

授業中に「なぜなら」「だから」等の接続語を使って発表することができる子供が増えている。普段の生活でも、友達に理由を説明するとき接続語を使って、相手に伝わりやすい表現で話をする事ができている。

低・中学年で学習した内容を踏まえて、高学年ではさらに意見交換による高め合いを目指している。

- ・ 自分の考えを最初に
- ・ 次に根拠を示す
- ・ 友達の発表を称賛する言葉
- ・ 友達の考えに補足する言葉
- ・ 質問する言葉
- ・ 補足の説明をお願いする言葉

算数科における練り上げのキーワード（いいはかせ）

いままで学習した方法で
いつでも使える
はやい
かんたん
せいかく

イ 辞書の活用

表現したり理解したりするための語句の量を増やし、使える範囲を広げていくために、中学年から授業の中で、辞書を積極的に活用させている。辞書の活用も、繰り返し取り組ませることで、処理が速くなってきた。また、辞書を活用する習慣を付けるために、必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような言語環境をつくっておくことが重要と考えている。そのために、教室だけでなく、図書室でも国語辞典を使うことができるように常備してある。

(ア) 中学年部

新出漢字を使った熟語の意味調べや授業中に出てきた言葉の意味調べ等を行っている。そして、調べた言葉に付箋を貼り、視覚的に達成感が持てるようにしている。

付箋が増えることで、子供たちは、意欲的に取り組むようになってきた。

国語辞典の積極的な活用を図るために、2・3年生から国語辞典の購入を呼びかけている。



「付箋がたくさんついた辞書」

(イ) 高学年部

週末の課題として、小学生新聞「天声こども語」の音読と感想記入を行い、その中で辞書を活用した意味調べを行っている。提出された課題は、その都度教室に掲示している。

(1学期に10枚、夏休みの課題として5枚行った。)

友達が調べた課題を興味深く見ている子供もたくさんいる。



「新聞の意味調べで辞書を活用」

ウ 板書の工夫

学習の流れが分かりやすいように板書の工夫を行っている。全学年での共通実践事項として、「めあて」は青、「まとめ」は赤で囲むようにしている。

(ア) 低学年部

挿絵や写真等を使用して、視覚的に訴える。



「視覚情報を多用した板書」



「図工での作品紹介」

(イ) 中学年部

発表した内容は目に見える形で残すようにしている。(板書・掲示等)



「系列化された板書」

《研究授業での実践》

- ・ 2枚のカードの書き方を比較させることによって、読み手に伝わるよりよい書き方について具体的に知ることができるようにした。
- ・ 感情を表す言葉を使い、豊かな表現で書くことができるようにした。

(ウ) 高学年部

高学年になると、なかなか自分の意見を言おうとしない子供が増える傾向が見られる。そこで、子供の意見や考えを生かした板書を心がけ、学習に対する自信と意欲の向上を図っている。



「学習の流れが分かる板書」

エ ペア学習、グループ学習

学習形態として、「個別学習」「ペア学習」「グループ学習」「一斉学習」がある。その中でも、研究の視点から「ペア学習」「グループ学習」を意識して取り入れ、実施の際には、そのねらいをはっきりさせた上で指導している。

＜ペア学習のねらい＞

- ・ 自分の考えを説明させることで、考えを明確にさせる。
- ・ 考えを説明し合うことで、理解を確かなものにさせる。
- ・ 友達の考えを聞くことで、自分の考えを補充・深化させる。
- ・ 自分の考えの不十分さに気付かせる。

＜グループ学習のねらい＞

- ・ 多面的な思考や考え（ペア学習で出てこない考え）を交流させる。
- ・ 一つの考えに練り上げたり、新しい考えを作り上げたりする。

(ア) 低学年部

国語・算数・生活・道徳・学活等で、ペア学習を多く取り入れている。最初はなかなか交流できなかったが、経験をしていくことで、少しずつ交流できるようになってきた。時間がかかることはあるが、経験をさせていくことが必要である。

1年生は、グループ活動はまだ生活科での調べ学習程度しか行っていないが、少しずつ、グループで司会を決めての活動も行いたい。

2年生は、グループ活動は生活科での絵地図作りや国語科の音読発表・作文の発表等で取り組んでいる。グループの中のリーダー的な子供が常に進行をしていたので、輪番で司会をさせていきたい。



「音読発表会」



「グループ学習」

(イ) 中学年部

友達との意見の交流を通して、多様な考え方に気付くとともに、自分の考えを積極的に言える雰囲気づくりに努めている。そして、自分の考えを友達に説明するときに、発表話型や接続語の指導が生かされている。

《研究授業での実践》

- ・ 生活場面を想起した問題場面を提起し、体験的な算数的活動ができるようにした。
- ・ 割合がとらえやすいように、関係を表や図で表すことで数量を比較しやすいようにし、量の具体的なイメージ化を図れるようにした。
- ・ グループごとの考えをホワイトボードで発表させることで、様々な考えをグルーピングしやすいようにし、視覚的にとらえやすいようにした。



「物語を読んだ感想の交流」

(ウ) 高学年部

子供の学力差（積極的に問題解決に取り組む子と基礎的な知識や技能が不足している子）が大きくなり、自力解決が難しい課題も多くなってくる。

そのため授業では、「個別学習」→「ペア学習」→「全体で発表・確認」という流れで学習を進め、苦手意識を持つ子供にも自信を付けさせ、最後まで諦めずに学習に取り組むことができるようにしている。さらに6年生では、「グループ学習」を多く取り入れ、司会を中心にグループ学習での話し合いが円滑に進むようにしている。



「グループ学習」

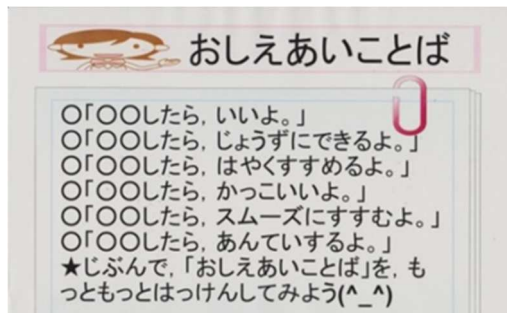
オ 発表方法の工夫

子供の発達段階に合った発表話型を使用しながら、自分の意見を伝えたり、教えたりする活動を取り入れた授業を行っている。

作文等、文章で表したものについては、掲示コーナーへ掲示している。

(ア) 低・中学年部

「おしえあいことば」をカードにし、グループ学習で活用している。



「おしえあいことば」



「グループでの教え合い」



「絵日記」



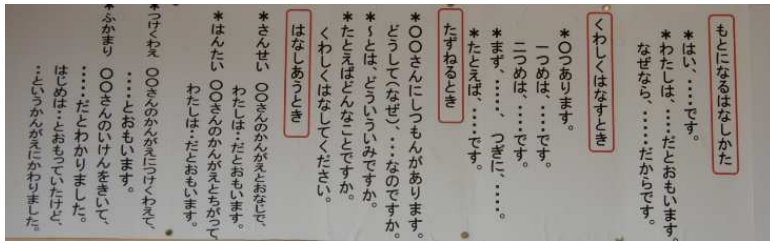
「壁新聞」

(イ) 高学年部

教室に掲示している「発表話型」や国語の教科書の「発表の仕方」等を随時確認し、正しい（状況に応じた）言葉で発表しようとする意識を高めている。

《研究授業での実践》

- ・ 「おすすめの本しょうかい大会」を行い、感じ方や考え方についての違いに気付くとともに、読書への意欲の向上をねらいとした。
- ・ 登場人物の気持ちが表れているところに線を引いたり、そこから読み取れる気持ちを書き込んだりして、叙述に即した読みができるようにした。



「教室に掲示した発表話型」



「発表話型を意識した発表」

(5) ICT機器や教材の活用

1年時からパソコンに親しむ活動（情報モラルの指導を含む）を授業で取り入れるとともに、全ての学年の授業でICT機器を活用するようにしている。視覚情報を活用することで、学習への興味・関心を抱かせやすく、長い時間集中する姿勢が高まってきた。

情報モラル指導全体計画

日置市立伊作小学校

学校教育目標
主体的に学び、心豊かで、心身ともにたくましく、夢実現をめざす伊作っ子の育成

情報モラル指導の目標
・ 情報社会における正しい判断や望ましい態度の育成を図る。
・ 情報社会で安全に生活するための危険回避の方法の理解やセキュリティの知識・技術、健康への意識向上を図る。

今日的課題
・ 情報社会の進展
・ インターネットや携帯電話などの普及
・ 児童がトラブルに巻き込まれる事件

めざす子供像
○ い 生き生きと自ら学、考える子
○ さ 最高にやさしく、思いやりのある子
○ く 苦しさに負けない、たくましい子

子供の実態
教師の願い
地域の願い

情報教育の分類と各自標				
情報社会の倫理	法の理解と遵守	安全への知恵	情報セキュリティ	公共的なネットワーク社会の構築
a. 発信する情報や社会での行動に責任を持つ。	c. 情報社会でのルール・マナーを遵守できる。	d. 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。	g. 生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る。	i. 情報社会の一員として、公共的な意識を持つ。
b. 情報に関する自分や他者の権利を尊重する。		e. 情報を正しく安全に利用することに努める。 f. 安全や健康を害するような行動を抑制できる。	h. 情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる。	

・ 各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間・創意の時間

学習環境の整備 コンピュータ等の情報機器のメンテナンス・セキュリティ対策 家庭・地域との連携

(ア) 低学年部

- 教科書を書画カメラでスキャンして、テレビで提示
- ドリルに付属しているフラッシュカードの活用（漢字・計算等）
- カメラの動画機能の活用



「書画カメラの活用」

(ウ) 高学年部

- 社会科の資料としてインターネットを活用
- 付属DVDの活用
- 算数のまとめに自作教材を活用



「社会科の授業での資料提示」

(イ) 中学年部

- 子供の機器活用能力の向上
- 情報モラルの育成
- 体験できないものの間接体験 → デジタルコンテンツの活用

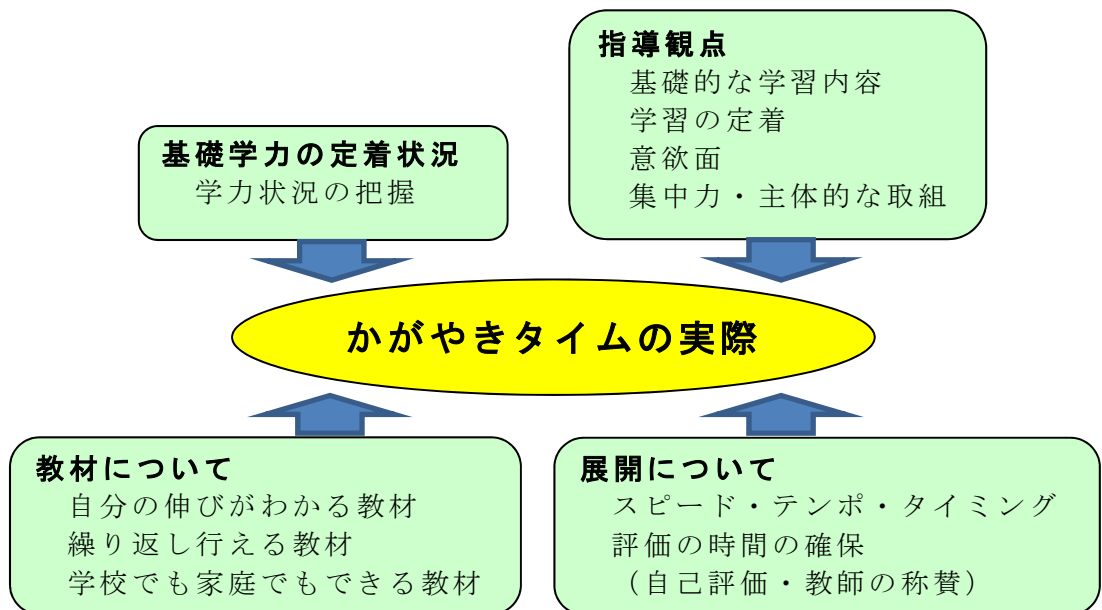


「パソコン室の利用」

(6) 基礎的・基本的事項の定着

ア 「かがやきタイム」の工夫

ねらい：各教科・領域の学習活動に生かし、基礎・基本の力を身に付けることで学習への自信を持ち、生き生きと楽しく学習に取り組めるようにする。



(活動例) 国語・・・音読（早口言葉、詩、短歌、名文等）、漢字の反復練習
算数・・・四則計算、重要ポイント音読
社会／理科・・・都道府県名、地図記号、歴史かるた、実験器具、重要事項
《平成23年度 伊作小「研究公開資料」より》

(ア) 低学年部

- ・ ひらがな、カタカナ、漢字（ドリル・プリント等）の先取り学習・復習
- ・ 計算問題のドリル・プリントを使用
- ・ 基礎・基本問題だけではなく、個に応じて発展・応用問題も用意して活用（個別指導の徹底）



「ICT活用（九九）」

(イ) 中学年部・高学年部

- ・ 漢字（読み・書き）・計算を中心に、ドリル（小テスト）を使用
- ・ 教科ごとの大切な語句やことばの音読（国語・算数・理科・社会）
- ・ 日新公いろはかるたの暗唱（意味理解）

(ウ) 特別支援学級

- ・ プリントやドリル（計算・漢字）の活用
- ・ 音読練習
- ・ 体（目、耳、手）を動かしながらの学習



「九九の歌の唱和」



「九九カードかるた取り」

イ 少人数指導・個別指導

個に応じた指導として、有効な教育方法の一つが少人数指導である。少人数指導が導入された経緯から、少人数指導の長所を見ると次の3点になる。これらの長所は、様々な個別指導においても生かされると考えられる。

- ・ 基礎・基本の徹底を図るため、学習の過程で個人差が生じやすい教科においてきめ細かな指導を行いやすい。
- ・ 子供の興味・関心や学ぶ意欲に基づいた主体的な学習を進めることができる。
- ・ 教員と子供、あるいは子供同士のコミュニケーションを図ることが一層可能になる。



「算数での少人数指導」



「特別支援学級での学習」



「支援員による支援」



「休み時間等の個別指導」

ウ テスト等を生かした指導

テストやドリルの活用法については、以下のように、全学年で共通理解し、実践している。

- ・ かがやきタイム等を利用して、単元テストのやり直しを必ずしてから、家庭に持ち帰らせ、家庭学習で確認をさせる。
- ・ 各学期末に漢字力・計算力テストを行う。
- ・ 授業の導入・終末でのドリル等の活用を行う。
- ・ テスト前に練習問題に取り組みせ、習熟を図る。



「ドリル学習の様子」

なお、高学年部では、土曜授業等を利用し、「今週の1問」（正答率の低い問題）や過去問題の解説を行っている。



「ドリル学習の学び合い」



「今週の1問」の個別指導

(7) 授業実践例

ア 実践① 第3学年 国語

平成30年6月27日(水)

単元名 読んでかんじたことを発表しよう (教材名 「もうすぐ雨に」 光村3年)

本時(6/9)

(1) 目標

カードを推敲し、友達の発表を聞いて、本のおもしろさを伝える工夫や一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。

(2) 学習の展開

過程	主な学習活動	時間	指導の手立て
つかむ・見通す	<p>1 前時までの学習をふり返る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>おもしろさがよりよくなったような工夫を入れて、カードをしあげ、交流しよう。</p> </div> <p>3 教師の補説を聞き、学習の進め方に見通しをもつ。</p>	5分	<p>○ 学習計画表を確認することで、本時の学習への見通しを持つことができるようにする。</p> <p>○ 「おすすめ本しょうかい大会」に向けて、本時ではどのようなめあてを持って学習するのかを確認することで、本時の学習への意欲につなげる。</p>
調べる	<p>4 提示された2枚のカードのうち、どちらのカードが、よりおもしろさが伝わるカードかを考え、書き方の違いを見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ただ、「〇〇がおもしろい」では、どんなふうにおもしろいか分からない。 ・ 好きなところをくわしく書いてあると伝わる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友だちにおもしろさがつたわるくふう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どこを読んでそう感じたのかを書く。 ・ 自分だったら…など、自分の考えを入れて書く。 ・ どんなふうにおもしろかったかを書く。 </div> <p>5 見つけた工夫をもとに、前時に書いた自分のカードを書き直す。</p> <p>6 自分のカードをグループの友達に紹介する。</p>	10分 20分	<p>○ 「もうすぐ雨に」を題材にした、2枚のカードの書き方を比較させることによって、読み手に伝わるよりよい書き方について具体的に知ることができるようにする。</p> <p>○ 感想を表す言葉を増やし、より豊かな表現で書くことができるようにする。</p> <p>○ 工夫をまとめることで、次時の「おすすめ本しょうかい大会」の準備に、生かせるようにする。</p> <p>○ 言葉の意味が分からないときは、国語辞典を活用させる。</p> <p>○ 初発の感想がより深まっていることに気付かせる。</p> <p>○ 友達の感想を聞くときに考えることについて提示してから交流させることで、同じ話を読んでも、人によって感じ方の違いがあることに気付かせる。</p>
まとめる・生かす	<p>7 友達の発表を聞いて、考えたことや感想を書く。</p> <p>8 本時の感想を発表させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じところが好きでも、理由が違った。 ・ 「…」という言葉の使い方がよかった。 </div>		<p>○ 友達の、おもしろさを伝える工夫や感想を表す言葉の使い方についても気付かせる。</p> <p>○ 次時は並行読書で読んだ本を紹介する「おすすめ本しょうかい大会」の準備をすることを伝えることで、次時の学習への意欲を持たせる。</p>

イ 実践② 生活単元学習（特別支援学級）
 単元名 牛乳パックで紙を作ろう（紙すき）
 本時（4／6）

平成30年9月10日（月）

(1) 目標

友達と協力して、楽しく紙すきの活動に取り組むことができる。

(2) 実際

◎は、授業者が考える「ユニバーサルデザイン」

過程	主な学習活動	時間	指導の手立て
つかむ・見通す	1 始まりのあいさつをする。 2 本時の学習についての話を聞く。 3 本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> みんなで協力して紙すきをしよう。 </div>	5分	○ 楽しい雰囲気での学習を始め、参観者がいることに対する子供の緊張をほぐすようにする。 ◎ 写真付きの工程表を提示し、本時の活動を確認することで、学習の流れを視覚的に捉えることができるようにする。 ○ 本時の活動で大切なことを考えさせ、全員で声に出して確認させる。
調べる	4 紙すきの準備をする。 (1) 細かくちぎった牛乳パックを、水と一緒にミキサーにかける。 (2) 細かくなったら原料をたらいに移す。 5 紙すきをする。 (1) すき枠の使い方の説明を聞く。 (2) 細かくなった原料に糊と細かく切った色紙を入れ、混ぜる。 (3) すき枠ですく。 6 紙を板の上に置いて干す。	33分	○ できるだけ水をこぼさないように、協力することを意識させる。 ◎ ミキサーに負担がかからないように、適量を入れさせ、みんなで10まで数を数えさせることで、「協力して作業する」ことを意識させる。 ◎ すき枠の使い方を映像を見ながら確認させ、実際に模範指導をして、正しいすき方と干し方が分かるようにする。 ◎ 計量カップに付けた印のところまで糊を入れさせる。 ◎ 使いやすいすき枠を選ばせ、できるだけ均等な厚さにすけるように支援する。 ○ 水切りまでしっかりさせる。 ◎ 自分の名前が書いてある場所に、他の紙と重ならないように、慎重にすき枠からはずさせる。
まとめる・振り返る	7 すきあげた作品を鑑賞する。 8 次の活動を知る。 9 終わりのあいさつをする。 ・ 全員で後片付けをする。	7分	○ 自分がかんばったことや友達の作品のよいところなどを発表させることで、達成感を味わわせる。 ◎ 本時の活動を称賛し、次の活動への意欲を持たせるとともに、次の活動について工程表や見本を使って確認し、見通しが持てるようにする。 ○ 協力して活動できるように言葉かけをする。

【つかむ・見通す】



しっかりと所定の場所で話を聞くための工夫→ラインを引いておく。

紙すきの仕方の説明を、一人一人の顔をしっかりと見ながら説明をする。



【調べる】

◎準備物の工夫



グループごとのミキサーを置く場所



場の設定（前面）

◎ユニバーサルデザイン



見やすい工程表を提示したりミキサー・すき枠などを置く場所などを工夫したりする。

◎ペア学習



ペアで活動する中で、教え合ったり手伝ったりしながら仲良く活動している。

自分なりの言葉でみんなに聞こえる声で発表する。

【まとめる・振り返る】



単元名 ひき算のひっ算

本時（2 / 13）

(1) 目標

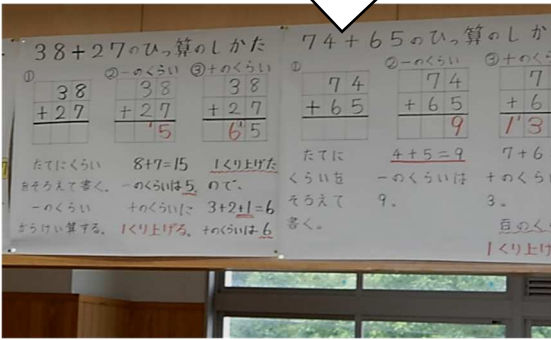
- ブロックを用いて、繰り下がりのある（2位数）－（2位数）の筆算の仕方を考え、順序よく説明することができる。 【思考・判断】
- 繰り下がりの意味が分かる。 【技能】
- 繰り下がりのある減法の仕方を工夫して考えることができる。 【態度】

(2) 実際

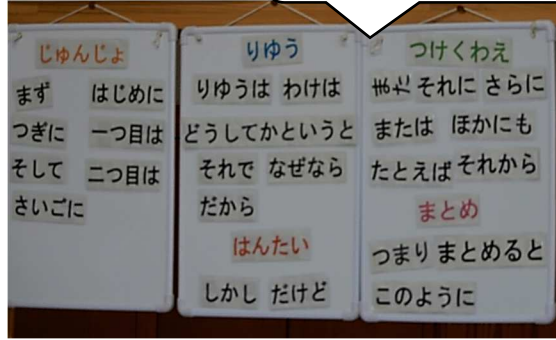
過程	主な学習活動	時間	指導の手立て
つかむ・見通す	<p>1 前時の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $45 - 24$ <p>2 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おり紙が45まいあります。27まいつかいました。のこりはなんまいでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを持つ（これまでと違うところ） <p>3 学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一のくらいがひけないときは、どのようにけいさんしたらいいだろうか。</p> </div>	7分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 難しいと感じている子供には、前時で学習した筆算の掲示物をもとに考えさせる。 ○ 問題文の中のキーワードを確認させ、どんな式になるか考えさせる。 ○ 一の位を計算させ、前時との違いに気付かせる。 ○ 前時との違いをもとに、学習内容をしっかりと理解させ、意欲的に学習に取り組ませる。
調べる	<p>4 自分なりの方法で計算の方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 解決への見通しを持つ。 ・ 図、式、筆算、ブロックを用いて考える。 <p>5 一人で考えた後、計算の方法をペアで話し合う。</p> <p>6 考えを全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体場で考えを発表する。 ・ 似たような考えをまとめる。 	30分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一の位を $7 - 5 = 2$、十の位を $4 - 2 = 2$ で 22 と書くことが予想されるので、$45 - 27$ は $45 - 24$ よりも答えが小さくなることを確認する。 ○ 繰り下がりがない場合と繰り下がりがある場合のブロック操作の違いを板書で視覚的に確認させる。 ○ 筆算の仕方につなげるために、10のまとまりを意識した考えを類型化する。 ○ ブロックの動きを見て、加法と減法の計算の仕方を比較させる。 ○ 解き方が分からない子供には、「$15 - 7$」をどう計算したか想起させる。
まとめる振り返る	<p>7 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一のくらいがひけないときは、十の位から1繰り下げてけいさんする。</p> </div> <p>8 振り返りをする。</p>	8分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供の考えや言葉を大切にしながら「まとめ」をする。 ○ 「めあて」との整合性を考えさせる。 ○ 振り返りをさせることで、自分の成長や友達の考えの良い点に気付かせ、本時の達成感を味わうことができるようにする。

【設営の工夫】

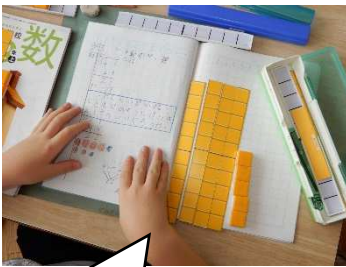
既習事項を確認できる掲示物。



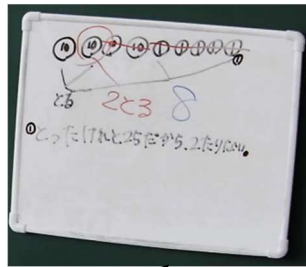
論理的な説明ができるよう、接続語を掲示。



【解決方法を探る】



ブロックを用いて考える。



図を用いて考える。



ひとり学習 & ともだち学習



【考えを共有】



- ホワイトボードを使って発表。接続語（まず、次になど）を用いて言葉で説明させる。
- 似た考えを類型化。→繰り返り下がりのある筆算の仕方につなげる。

【まとめ・振り返り】



子供の言葉を用いて筆算の仕方をまとめる。
子供の言葉を大切にする。



本時の学習で身に付けたこと、できるようになったことを発表した。

2 学習環境の整備（家庭学習を含む）

(1) 実態調査の実施

目指す子供の姿をもとに「話すこと・聞くこと」についての調査項目を立て、実態調査を行っている。2か月に1回程度行い、その変容を見ることで、教児ともに「話すこと・聞くこと」についての指導や学習を振り返り、よりよい姿を目指すことを意識付けるようにしている。

「話すこと」・「聞くこと」についてのアンケート（ ）月
（ ）年（ ）組 名前（ ）

★ 自分に当てはまるものに○をつけましょう。 4とてもできる 3できる 2あまりできない 1ぜんぜんできない

		4	3	2	1
1	学習中や話し合いの時、自分の考えをもち、友達に伝えることができますか。「わたしは、～だと思えます。」など				
2	自分の考えを理由と一っしょに伝えていますか。 「なぜなら～だからです。」「そのわけは～だからです。」など				
3	順序を表す言葉を使って、自分の考えを説明することができますか。 「まず」「次に」「最後に」「一つ目は～、二つ目は～」など				
4	声の大きさや速さに気を付けて、話していますか。				
5	自分の考えと同じところや違うところなどを比べながら、友達の考えを聞いていますか。				
6	友達の考えを聞いたあと、質問や感想を伝えていますか。 「どうして～なのですか？」「～とは、どんな意味ですか？」 「〇〇さんの考えを聞いて、わたしは～と思いました」など				
7 (上 学 年 の み)	友達の考えを聞いて、賛成意見や反対意見を伝えたり、自分の考えを付け加えたりしていますか。 「〇〇さんの考えと同じで、わたしは～と思えます。」 「〇〇さんの考えと違って、わたしは～と思えます。」 「〇〇さんの考えに付け加えます。わたしは～と思えます。」など				
8 (上 学 年 の み)	友達の考えを聞いて、自分の考えを訂正したり、広げたり、深めたりして、よりよい考えを見つけ出そうとしたりしていますか。 「はじめは～思っていたけど、〇〇さんの考えを聞いて～という考えにかわった。」「なるほど、そんな考え方もあるな」など				
9	学習をふり返り、よくできたことやもっと知りたいこと、がんばりたいことなどを考えていますか。				

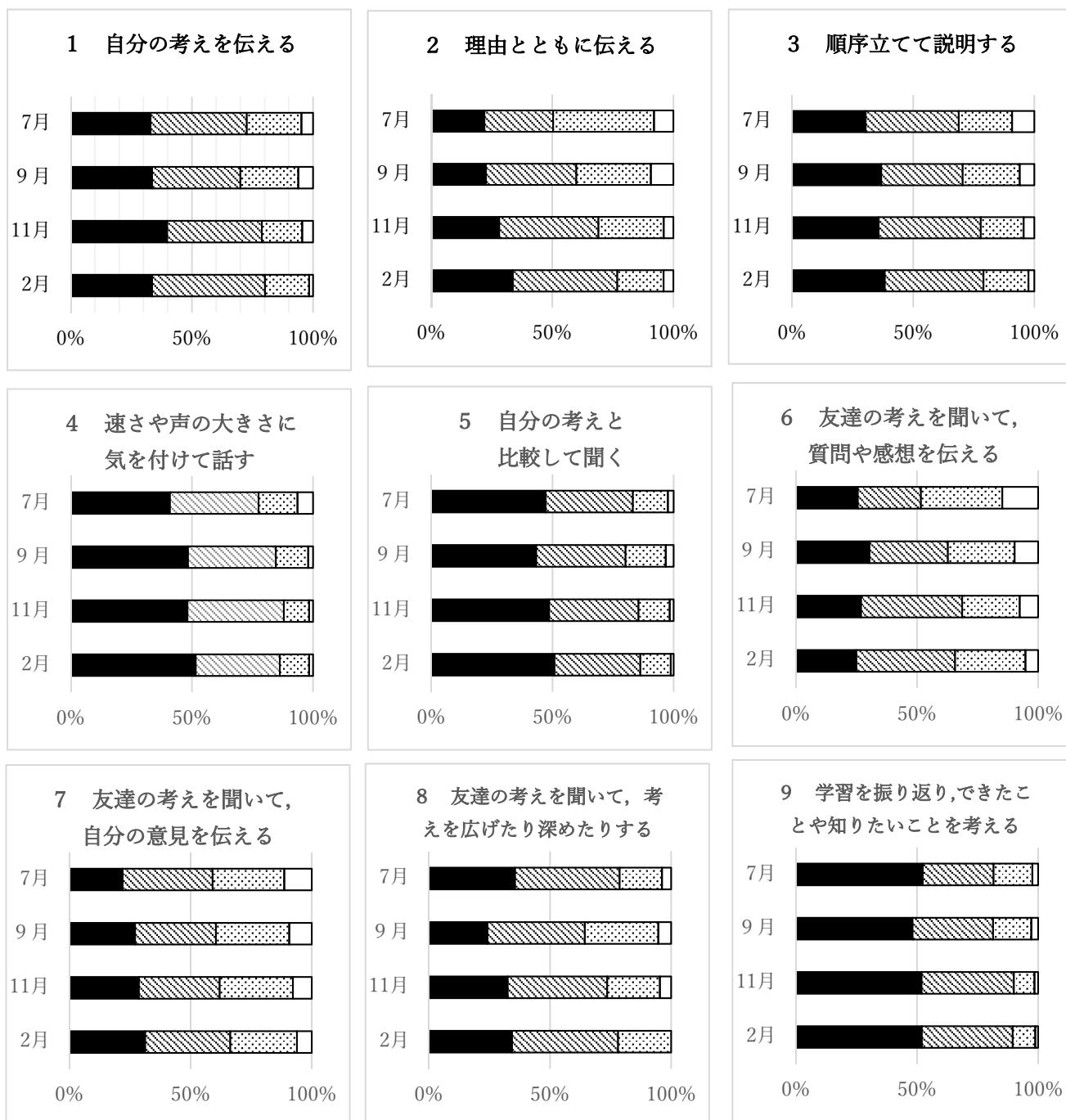
H30年度 全校児童の実態

とてもできる

 できる

 あまりできない

 全然できない



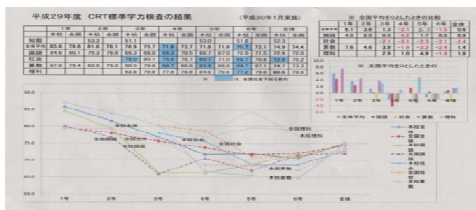
【考察】

- ・ 自分の考えを理由とともに伝えることができるようになった子供が50%から約80%に増えた。
- ・ 80%以上の子供が速さや声の大きさに気を付けていると答えているが、まだまだ早口で声の小さい子供が多く、継続的な指導が必要である。
- ・ 友達の考えを聞いて、質問や感想を述べたり、自分の意見を伝えたりすることは、あまりよくできていないと答えた子供が多い。意見をお互いに言いっ放しで終わってしまうことも多く、「対話的で深い学び」にはまだ至っていない。
- ・ 昨年度1年間でほとんどの項目で「とてもできる」「できる」と答えた子供が増加し、「話すこと・聞くこと」への自信を深めている。今後も、継続して活発に意見を交わす授業づくりに取り組んでいきたい。

(2) 学力テスト等の結果分析と対応

ア CRTの分析と取組

職員研修にて、結果の分析と情報の共通理解を行い、分析結果や調査結果でよくなかった課題を次年度の教育課程の指導計画に苦手分野を網掛けで示し、指導に生かすようにしている。(PDCAサイクル)



「CRTの結果」

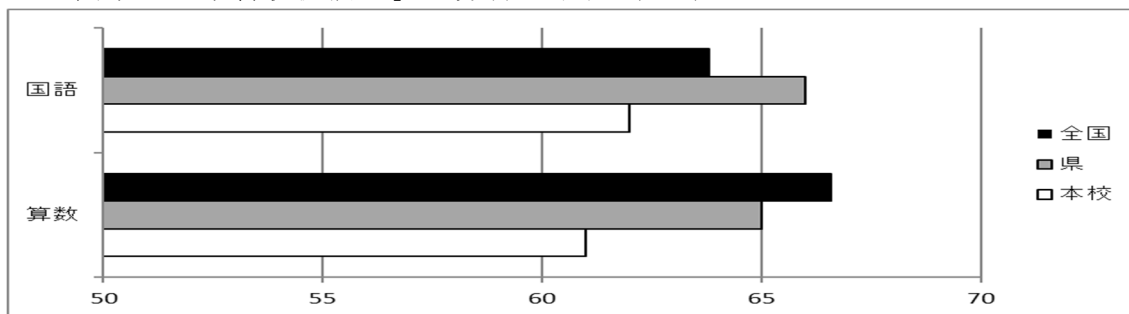
「小領域別の集計」

第4学年 単元一覧表(2学期) ☆…ひおき学

教科	9月	10月	11月	12月
国語	忘れもの/ほくほく川 カンザシ/はかせの漢字しりとり だれもが隣り合えるように ・手と心で読む ・発表のしかた	漢字の広場③ く下巻 こんざつね 秋の風景 慣用句 アップとルーズで伝える	アップとルーズで伝える 「わたり」のしりとり 「わたり」のしりとり 「わたり」のしりとり 「わたり」のしりとり	ブラタビスの木 漢字の広場④ 文と文をつなぐ言葉
書写	①組み立て方(左右の部分) ②組み立て方(上下の部分) こう筆に広げよう ・字形の整え方	③組み立て方(上下の部分) ④組み立て方(左右の部分) 「わたり」のしりとり 「わたり」のしりとり	⑤組み立て方(左右の部分) ⑥組み立て方(上下の部分) こう筆に広げよう ・漢字とかなの大きさ ・ノートに書こう	生活にひろげよう 書き初めをしよう (天空)(美しい空) ・年賀状を書こう
社会	⑦組み立て方(左右の部分) ⑧組み立て方(上下の部分)	⑨組み立て方(左右の部分) ⑩組み立て方(上下の部分)	⑪組み立て方(左右の部分) ⑫組み立て方(上下の部分)	⑬組み立て方(左右の部分) ⑭組み立て方(上下の部分)
算数	⑮組み立て方(左右の部分) ⑯組み立て方(上下の部分)	⑰組み立て方(左右の部分) ⑱組み立て方(上下の部分)	⑲組み立て方(左右の部分) ⑳組み立て方(上下の部分)	㉑組み立て方(左右の部分) ㉒組み立て方(上下の部分)
理科	㉓組み立て方(左右の部分) ㉔組み立て方(上下の部分)	㉕組み立て方(左右の部分) ㉖組み立て方(上下の部分)	㉗組み立て方(左右の部分) ㉘組み立て方(上下の部分)	㉙組み立て方(左右の部分) ㉚組み立て方(上下の部分)

「苦手分野の網掛け」(教育課程)

イ 「全国学力・学習状況調査」の分析と取組 (H31)



県や全国と比較すると、国語、算数いずれも下回っているため、実態把握、具体策の共通理解を行った。本年度は、平均正答率の比較、問題の分析だけではなく、平均正答数、中央値、四分位、標準偏差にも着目して実態を把握した。

教科	平均正答率	平均正答数	中央値	標準偏差	教科	平均正答率	平均正答数	中央値	標準偏差
国語					算数				
本校	62	8.7	9.0	2.9	本校	61	8.6	9.0	2.6
県	66	9.2	10.0	3.4	県	65	9.2	10.0	3.1
全国	63.8	8.9	10.0	3.4	全国	66.6	9.3	10.0	3.1

このような実態の分析から、全体的な底上げ及び上位層の向上を図ることを職員研修で確認し、各学年の効果的だった具体策を紹介し合い、共通実践事項として位置付けた。

【共通実践事項】

- 算数の問題文の読み取らせ方(数値を囲む。尋ねていることに線を引く。など)
- 辞書の活用(中・高学年)
- 問題を解く型を身に付けさせる。(例 速さの問題・・・表を書いて考える。)
- 「今週の一問」の効果的な活用(授業中、発展問題として活用する。)

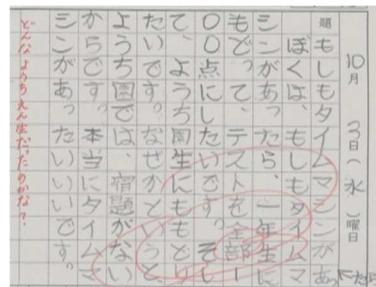
(3) 授業外における言語活動の充実

ア 各教室や学年コーナーにおける作品掲示



イ 生活ノートにおけるテーマ日記・短文作りの取組
 使える言葉を増やしたり、言語感覚を養ったりするために、各学年の発達段階に沿って言葉の力を付ける取組をしてきた。

テーマ日記や短文作りの取組を継続したことにより、子供たちは言葉の力を身に付けてきている。



「もしも日記」

ウ 新聞「若い目」「子供のうた」への投稿



〈掲載記事の紹介〉



〈新聞コーナーの活用〉

子供の頃の日記や作文などを新聞に投稿することで、子供たちは、身に付けた力を生かす場が広がり、自信を高めている。掲載された文章は掲示したり、給食時間に放送したりして、他の子供も友達の多様な考え方や感じ方、表現の仕方に触れる機会を作っている。

また、小学生新聞コーナーを設け、新聞に親しむ子供の育成を図っている。

エ 朝の会等での1分間スピーチ



身近にあった出来事や時事のニュースなどから、自分が感じたことや考えたことなどを、友達に分かりやすく伝える活動を通して、考えをまとめることや伝えることの必要性を理解することができるようになってきている子供たちが増えてきている。

オ 学校行事等における発表の場の設定

入学式や始業式、終業式、本校独自のかめさん祭り等において、子供たちの発表の場を設けている。様々な発表の経験を通して、子供たちは相手意識を持って堂々と発表することができるようになってきた。原稿をほとんど見ずに暗記して発表できる子供が増えてきた。



入学式でのあいさつ。1年生に分かりやすい話し方を工夫



「かめさん祭り」で学年のテーマに応じて自ら課題をもち、調べたことを様々な形で発表



さらに、集会活動や表彰式の後に意見や感想を發表する場を設け、自分の思いや考えを表現し、交流する態度が育ちつつある。



音楽集会で学年の発表を聴いた後、感想を交流



表彰を受けた子供が感想や次の目標についてコメント

(4) 読書活動の充実

ア 朝読書（月～木曜日）

各クラスで「一人で読む日」や「ペアで読み合う日」等を設定し、読書に親しむ子供の育成に取り組んでいる。

イ リーディングバディによる読み聞かせ

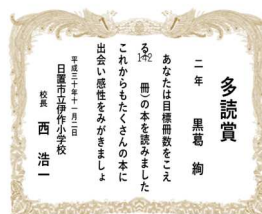


本校では1年生と6年生が年間を通じたバディを組み、様々な場面で6年生が1年生をサポートしている。毎週木曜日に、6年生が1年生に読み聞かせを行っている。



ウ 多読賞や読書賞の表彰

11月の読書集会の際に、各学年の目標冊数（低学年 100冊・中学年 80冊・高学年 60冊）を超えた子供や必読図書（各学年 20冊）を読破した子供の表彰を図書委員会行い、読書意欲を高めている。



〈必読図書コーナー〉

エ 読書月間の実施

6月・10月・2月の年3回、読書月間を設定し、朝の読書タイムに保護者・職員及び地域ボランティアによる読み聞かせを行ったり、普段は1人2冊までの貸し出しを3冊に増やしたりして、読書意欲を高めている。

また、毎年11月1日に読書集会を開き、図書委員会による読書感想画や読書標語の募集と表彰、地域の読書ボランティア「ポケットファンタジー」によるお話会を行っている。



〈地域ボランティアによる読み聞かせ〉



〈読書感想画と読書標語の表彰と紹介〉



〈子供と読書ボランティアによるお話会〉

(5) 家庭学習の充実

本校は、家庭や中学校との連携を図りながら家庭学習を推進している。

ア 家庭学習の手引き(小中連携)

吹上中校区で共通の小中一貫した家庭学習の手引きを作成し、学級PTAで家庭学習の重要性について話すとともに、各学年の発達段階に応じた家庭学習の在り方や内容について説明を行っている。

令和元年度
家庭学習の手引き
(小中一貫教育)

基礎段階に応じた家庭学習

学年	自主学習	学校の宿題
低学年	・めい、すう ・図鑑などの 学習ができる。 ・児童クラブ等で宿題をしても、家でめい、すうが学習をする。	・学校の宿題は必ずできる。 ・宿題クラブ等で宿題をしても、家でめい、すうが学習をする。
中学年	・宿題以外の学習に 自分から取り組むこと ができる。 ・何をやるかを考え、必要だと 思う自主学習に取り組むこと ができる。	・学校の宿題は確実に ていねいにできる。 ・宿題だけでなく 基本的な学習もできる。 ・自分の学習方法を確立すること ができる。・各教科の学習態度 を向上させる。
高学年	・自分なりの学習方法を確立すること ができる。・必要だと感じる自主学習が できる。・興味をもったことを 深く取り組むことができる。	・各教科の学習態度 を向上させる。

吹上中校区
永吉小 伊作小 花田小 和田小 吹上中

保護者の皆様へ

【家庭学習のねらい】

- 学習態度を身に付ける
- 学校で学習したことの定着を図る
- 自ら学ぶ姿勢を育てる

【まずこれだけ!】

- 宿題を必ずやり終えよう
- 学習態度を整えよう
- TVを見る、夜更の時のインターネット、スマホ、タブレット使用は控えよう
- 読書やゲームは適量にしよう

【家庭学習のポイント】

- 同時並行同時所です
- はじめて動きます
- 読書体験をしよう
- 新聞やニュースに関心をもちましょう

【家庭学習の時間】

- 2学年・学年テスト 8月27日～10月 1日(予定)
- 2学年・学年テスト 11月18日～11月27日(予定)
- 2学年・学年テスト 2月 5日～ 2月14日(予定)
- *アウトライアに準拠いたします

平成31・令和元年度《吹上地域小中一貫教育の取組表》

学年	基礎期				充実期			運動期			
	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年		
時間的めやす	20～30分	30～40分	40～50分	50～60分	60～70分	70～80分	80～90分	90～100分	120分		
家庭学習のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校からの文書や手帳を家の人にわたし、ランドセルの中を整理する。 2 机の上や周りの漫画やゲームを片付ける。 3 まず宿題をする。 4 宿題が終わったら、読書や今日習ったところの復習をする。 5 終わったらおうちのの人に見てもらおう。 				<ol style="list-style-type: none"> 1 学校からの配布物を必ず保護者に渡す。 2 まず宿題をする。 3 宿題が終わったら、授業の予習・復習をする。 4 自分で計画を立てて自主学習に取り組む。(進路を見据えた計画的な学習に取り組む) 5 じっくり読書に取り組む時間も工夫する。 						
家庭学習・自主学習の内容	国語 ・口の形や声の大きさに気を付けて音読をする。 ・学校で習った漢字を練習する。 ・今日あったできごとを日記に書く。 ・ひらがなやカタカナの練習をする。 算数 ・学校で習った問題をもう一度解く。 ・プリントやテストの間違いを直しをする。 ・九九がすらすら言えるまで練習する。 ・定規を使う練習をする。				国語 ・読む速さや声の調子に気を付けて音読をする。 ・覚えていない漢字を中心に練習する。 ・楽しかったことや心に残ったことを日記に書く。 ・国語辞典で言葉の意味を調べたその言葉を使った短文作りをしたりする。 算数 ・間違えなくなるまでプリントやテスト、ドリルなどを繰り返し解く。 ・コンパスや分度器を使う練習をする。			国語 ・聞き手を意識して音読をする。 ・漢字を使った短文作りをする。 ・テーマを決めた日記を書く。 ・詩や俳句・短歌などの暗誦をする ・教科書や新聞記事などを復習する ・「今週の一言」をする。		英語 英文を読みながら書いて語彙力を高める。毎日の宿習で学習の習慣化を図る。新出語句を調べることでも興味関心を高める。 学習した音楽を聴きながら歌う。合唱では、口形等の練習をする。 様々な音楽に耳を傾け、各教科や風土・文化・歴史のつながりや理解を深める。演奏会などに行き、楽しいと感じたり、感動の機会を作る。 家庭 各家庭で役割を持ち、家事分担をすることで、生活の自立を促す。 技術 物作り・コンピュータ活用等、学習したことを家庭で実践する。 情報モラルに気を付けながら、情報や情報機器を扱う。	
保護者の関わりポイント	愛情あふれるコミュニケーション ・「やったね」「よくできたね」「がんばったね」などのほめ言葉がやる気を引き出します。時には顔をなでながらほめると一層効果的です。 意欲を引き出す言葉かけ ・学習には個人差があります。友だちや兄弟・兄妹・姉妹・姉妹と比べないでください。本人の持つ「良さ、がんばり」を認めましょう。				生活リズム ・5・6年になると少年団や習い事等で下校後も遅たしくなります。「夕食の時刻」「寝る時刻」等を決め、「学習の時間」をしっかり確保しましょう。			進路を決めて学習計画 ・目標ははっきりしない具体的な計画は立てられません。進路について家庭でしっかり話し合いましょう。そうすると、現在足りないもの、必要なものが明確に分かり、計画的に学習を進めることができます。			

イ 家庭学習強調週間の充実

さらに、本校では、家庭学習を充実させるために、吹上中学校の定期テストの期間に合わせて家庭学習強調週間を設定し、各家庭において「我が家の家庭学習3か条」を親子で決めて取り組んでいる。

そのねらいは、以下の4点である。

- ① 子供たちの学力向上
- ② 基本的な生活習慣や過ごし方、生活のリズムの確立
- ③ 家庭学習に集中できる環境づくり
- ④ 保護者の家庭学習に対する意識の啓発

3か条の内容をより具体的な取組内容にしたがり、家庭学習時間の計画の記入方法の工夫改善を行ったりして、家庭学習の充実が図られるようになってきた。なお、学校全体で共通実践が図られるよう、職員向けに説明用資料も作成し、共通理解を図った上で、学級PTAで内容についての説明を行い、保護者の理解と協力を得るようにした。

令和元年度
我が家の家庭学習3か条 (記入例)

(6)年(1)組 名前(伊作 電太)

【第1条】家庭学習の一日の目標時間(伊作小のめやすの時間:10分×学年+20分)

合計(90分)

※ 月曜日から金曜日の合計が、上記の目標時間となるように計画を立てましょう。
 ※ 1コマは1時間ずつになっていますが、半分で「30分」などのように短縮することも可能です。
 ※ 宿題が終わった後、20分追加で勉強をする。字をいかに書く。宿題が終わったら、しっかりと見直しをする。机に書かれても、勉強をする。計画通り実行する(苦しい教科を中心に本の目標冊数をそろえるように読む。必要に応じて、きれいな字を書く。など)

【第2条】子どもが決める家庭での約束

【第3条】保護者として取り組むこと

【家庭でよく目につく場所に掲示しておきましょう!】

※記入されました9月9日(月)に担任にご提出ください。

ウ ホームチャレンジ

(体力づくり・音読)

平成27年から2年間取り組んできた体育の研究の実践を継続し、全学年、4月の学級PTAの際に、親子でできる体力づくりの例を紹介し、毎日、家庭で体力づくりと音読に取り組んでいる。

(上学年の新聞活用)

週に1回のペースで、家庭で新聞に触れる課題を出している。新聞のコラムを音読し、難しい言葉の意味を国語辞典で調べ、最後に感想を書く。

4年生にとっては、学年当初、難しいところもあったが次第に慣れ、語彙力アップにつながっている。また、書いた感想を音読し、保護者に聞いてもらい、サインやコメントを書いてもらっている。

エ 学習習慣チェックの実施

家庭で、学習習慣を付けるために、親子で学習習慣チェック表を作成し、毎月1回、1週間、取り組んでいる。継続することで、子供や保護者の意識が次第に高まってきた。

9月の音読・ホームチャレンジカード

今月のあて	毎日、はきはきと音読				
6年 1組	名前 (森中 マコ)				
日	曜日	読んだところ	ホームチャレンジ (朝) なわとび・ストレッチ・ランニングなど1回程度、時間等も記入してもOK!!	読んだページ	感想
1	日	国・算・社・理・その他 (p. 84 ~ p. 85)			
2	月	国・算・社・理・その他 (p. 86 ~ p. 87)			
3	火	国・算・社・理・その他 (p. 88 ~ p. 89)	9分入 (25分)		
4	水	国・算・社・理・その他 (p. 90 ~ p. 91)	ストレッチ		
5	木	国・算・社・理・その他 (p. 92 ~ p. 93)	ストレッチ		
6	金	国・算・社・理・その他 (p. 94 ~ p. 95)	× × ×		
7	土	国・算・社・理・その他 (p. 96 ~ p. 97)	ストレッチ		
8	日	国・算・社・理・その他 (p. 98 ~ p. 99)	ストレッチ		
9	月	国・算・社・理・その他 (p. 100 ~ p. 101)	9分入 (25分)		
10	火	国・算・社・理・その他 (p. 102 ~ p. 103)	9分入 (25分)		
11	水	国・算・社・理・その他 (p. 104 ~ p. 105)			
12	木	国・算・社・理・その他 (p. 106 ~ p. 107)			

天の声

夏休みは、お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さんと一緒に、いろいろなことをやりました。楽しかったです。また、お友達と遊んだり、お出かけしたり、おもしろかったです。夏休みは、おもしろい時間でした。

夏休みは、お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さんと一緒に、いろいろなことをやりました。楽しかったです。また、お友達と遊んだり、お出かけしたり、おもしろかったです。夏休みは、おもしろい時間でした。

夏休みは、お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さんと一緒に、いろいろなことをやりました。楽しかったです。また、お友達と遊んだり、お出かけしたり、おもしろかったです。夏休みは、おもしろい時間でした。

〈記事の意味調べ〉

学習習慣チェック (1週間用)

6年 1組 ()

学習習慣チェック (できたら○をしよう)		表	家	菜	育	表
①	学校からの手紙などをおうちの大人にわたした	○	○	○	○	○
②	テレビやゲームのスイッチを消して学習した	○	○	○	○	○
③	決められた時間 (80) 学習した	○	○	○	○	○
④	明白の時間割を見て、宿題・教科書・ノートなどをランドセルに入れた	○	○	○	○	○
⑤	鞆箱に削った鉛筆5・6本、赤青鉛筆 (ペン)、消しゴム、定規を入れた	○	○	○	○	○
⑥	おうちの大人に学習 (宿題) のチェックをしてもらった	○	○	○	○	○

〈学習習慣チェック表〉

(6) 基本的生活習慣の定着

ア さわやかタイム・きらきらスマイル週間の実施

毎週月曜日の朝にさわやかタイムを設け、身だしなみのチェックを行っている。また、学期始めに、きらきらスマイル週間で生活習慣を振り返る週間を設けている。

基本的生活習慣を身に付けさせることで、家庭学習の充実を図っている。きらきらスマイル週間では、学校保健委員会で話し合った内容を学年に応じてチェック項目を取り入れることにより、家庭との連携を図っている。

実施項目	基本項目	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
寝る時間	+	1年生: 帰宅時の手洗い・うがい	2年生: 仕上げみがきをする	3年生: 夜の仕上げみがきをする	4年生: 食事中はノーメディアタイム	5年生: 親に言われる前の行動	6年生: 9時以降ノーメディア
夜の歯みがき		2年生: 仕上げみがきをする	3年生: 夜の仕上げみがきをする	4年生: 食事中はノーメディアタイム	5年生: 親に言われる前の行動	6年生: 9時以降ノーメディア	
起きる時間		3年生: 夜の仕上げみがきをする	4年生: 食事中はノーメディアタイム	5年生: 親に言われる前の行動	6年生: 9時以降ノーメディア		
朝ごはん		4年生: 食事中はノーメディアタイム	5年生: 親に言われる前の行動	6年生: 9時以降ノーメディア			
朝の歯みがき		5年生: 親に言われる前の行動	6年生: 9時以降ノーメディア				

きらきらスマイル週間

3年生用

3年 1組 名前

	3日(火)	4日(水)	5日(木)	6日(金)
①朝起きる時刻				
目標 (6時 30分)	X	○	X	○
②朝ごはんを食べた	○	○	○	○
③歯の歯みがき	○	○	○	○
④夜の歯みがき	○	○	○	○
⑤夜寝る時刻				
目標 (9時 30分)	○	X	○	○
⑥夜の仕上げみがき	○	○	○	○

1週間振り返りてみる感想・反省

朝はなかなか自分の力で起きられず、お母さんかお父さんが起こしてくれました。早く早起きを毎日したいと思います。

お家の方から

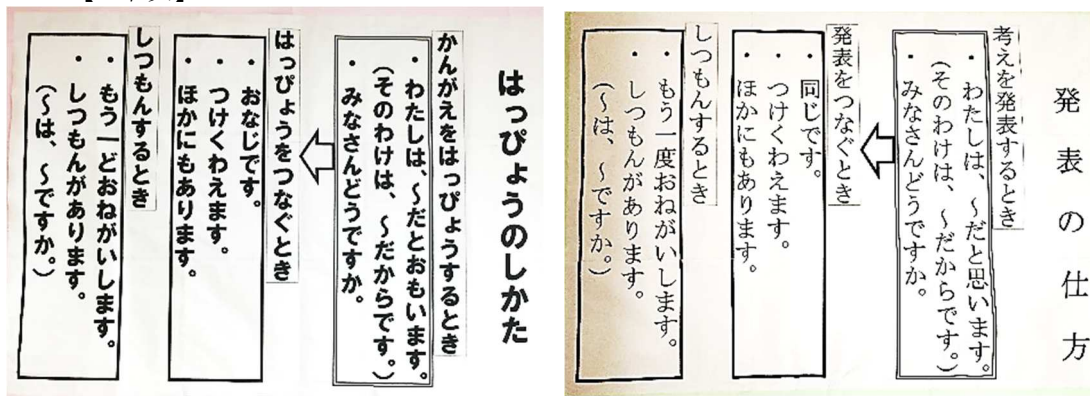
家族みんなが規則正しく早起きに心がけて、健康的な生活を目標にします。

(7) 発表話型、板書カード、接続語カードの作成

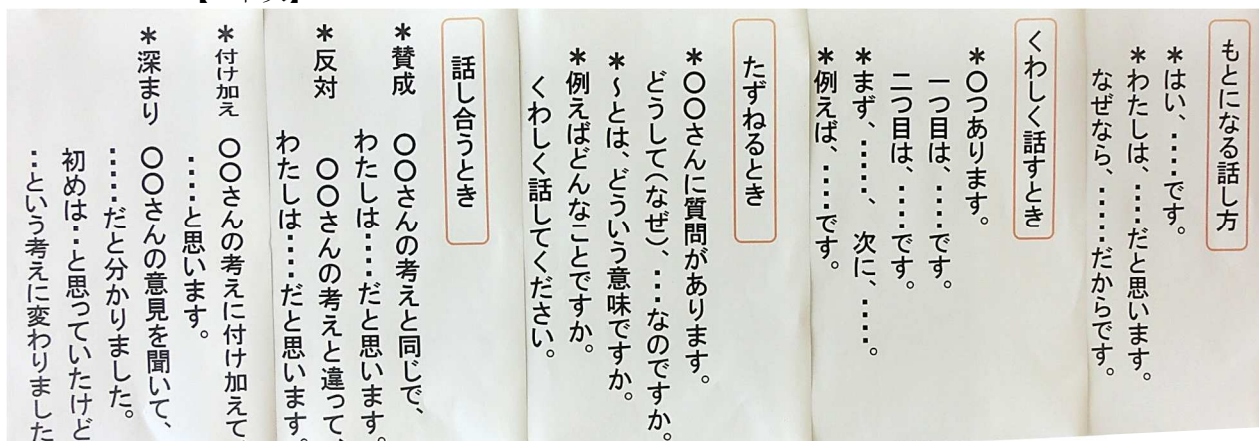
ア 発表話型の掲示物作成

1年次は基本的な発表話型を全学年統一して作成して掲示したが、2年次は、実態調査項目の発表の例に挙げている話型を掲示して、よりよい表現力の育成を目指している。

【1年次】



【2年次】



イ 「問題」「めあて」「まとめ」カードの作成

子供が問題解決的学習の流れを視覚的に捉えることができるように、板書カードを作成して全学級に配付し、活用している。

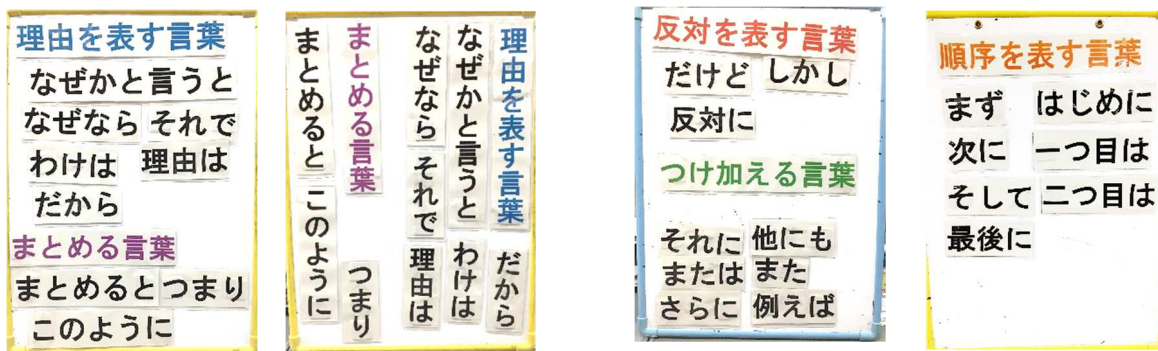


ウ 接続語カードの作成

- どの教科でも活用できるよう、裏と表で縦書き・横書きにした。
- 常時教室に設営することで、子供たちの表現力アップを狙っている。

【横書き】

【縦書き】



3 校内研究体制の確立

(1) 模擬授業

校内テーマ研究を進めるに当たって、学校のチーム力を高めるためには、各担当者に一任した依存型の研修体制を改善する必要がある。また、限られた時間の中で、効率的に進めていくために、本校では指導案検討と模擬授業を同時に進めてきた。その場で意見を出し合い、「何のために」「何を目指した」校内研修であるかについて、全職員で合意形成を図りながら共通理解のもと進めることができた。



第3学年国語科



第6学年算数科

(2) ワークショップ型授業研究

「協働的で対話型の研修」を実現するために有効な方法は、「ワークショップ型」の研修の手法である。ワークショップ型授業研究会の基本的な流れは、図1のとおりである。上学年部と下学年部の2つのグループに分けて、成果・課題・改善点を付箋で視覚的に構造化してきた。

また、授業研究会の最後には、各自「授業改善ミニカード」を記入し、全職員で振り返りを行うことで、共通実践へとつなげることができた。

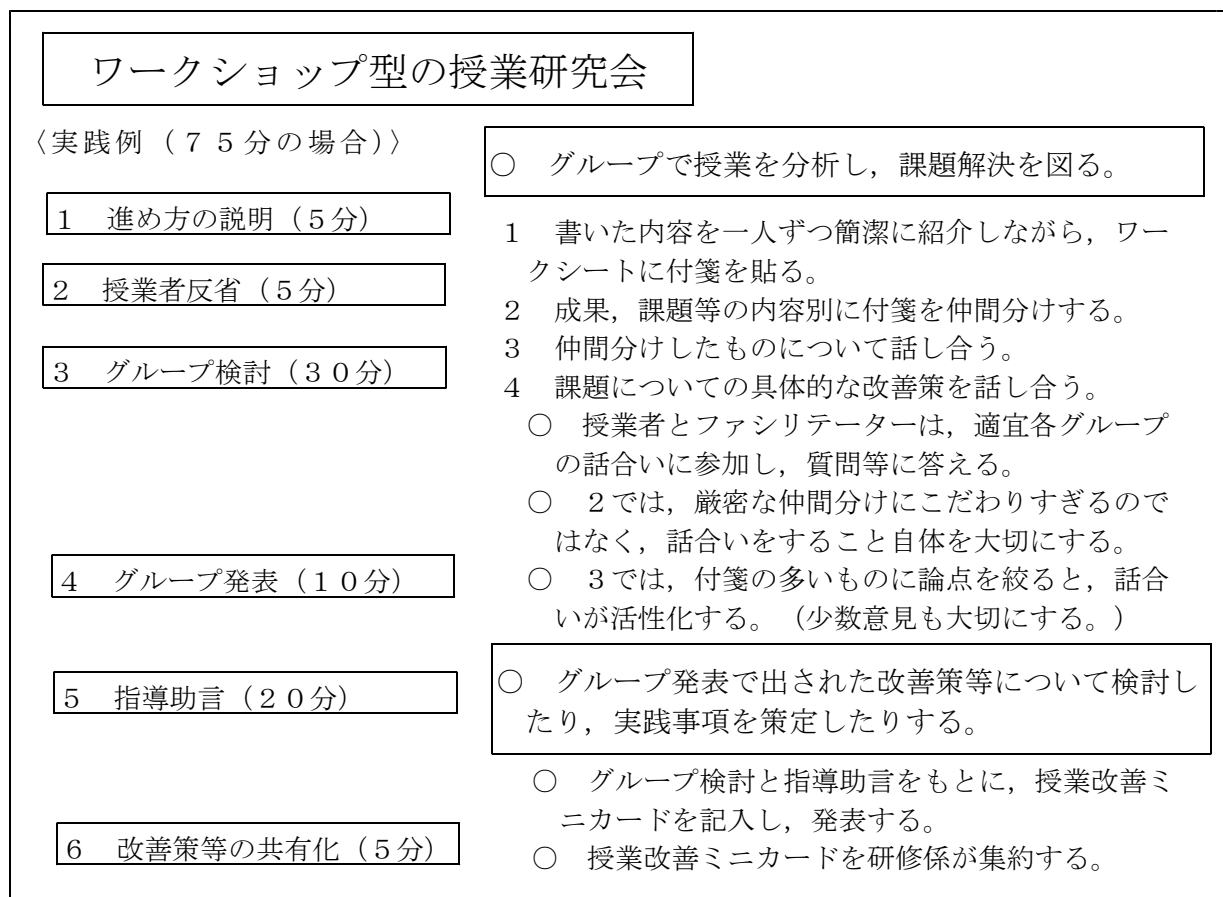


図1 ワークショップ型の授業研究会の基本的な流れ



第3学年国語科



特別支援学級



第6学年算数科

平成30年11月19日

授業改善ミニカード

氏名(竹 近 悠)

【授業や授業研究を通して学んだこと】

- 教科書・問題と身近な問題とを結び
- グループ内で話し合いを促す
- ICTの活用や視覚的に分かりやすい教具(標地図)
- 子ども達に分類

【具体的な実践事項】

(教科書・問題と身近な問題とを結び、日常の生活)

- ・視覚的に分かりやすい教具
- ・教える子ども達に分類すること

平成 年 月 日

授業改善ミニカード

氏名(小 山)

【授業や授業研究を通して学んだこと】

- ・導入部分で、見直しもたせることの大切さ
- ・ICTの効果的な活用法
- ・考えを繰り返す

【具体的な実践事項】

- ・教科書の学習課題を、子どもたちの関心や思考に合わせて工夫する
- ・グループでの話し合い活動のさせ方(繰り返すまでできさせる類型?)

授業改善ミニカード

(3) 「学びの組織活性化」推進プロジェクト実践校としての取組

平成30年度「学びの組織活性化」推進プロジェクト実践校に指定され、本校研究テーマと重ねて、組織的かつ総合的な学力向上に向けた取組を一年間行った。模擬授業と指導案検討の段階から、日置市教育委員会に指導していただき、研究授業に向けて全職員で進めてきた。研究授業では、県教育委員会義務教育課と鹿児島島教育事務所指導課、日置市教育委員会学校教育課から、それぞれ指導主事の先生方が指導助言に来られ、親切ていねいな指導をいただき、充実した授業研究を行うことができた。年間を通して指導をしていただくことで、子供の変容も含め、校内研修のあり方等の向上も見られた。



指導助言の様子

III 研究の成果と課題

成果○ 課題▲

1 視点1【主体的・対話的で深い学びの授業の創造】

- 一単位時間の基本的な指導過程に基づいて授業を実践すると同時に、学習のしつけの定着を図ることで、子供が明確な課題意識をもち、見通しをもって学習に取り組むことができるようになってきた。
- ユニバーサルデザインの考え方を導入したことで、発表話型や板書に統一性が表れてきた。
- 子供に目的意識をもたせて、ペア学習やグループ学習に取り組ませることで、学びの深まりが見られるようになってきた。また、意見を発表することに抵抗があった子供も、少しずつ自信を付けて発表できるようになってきている。
- 全学年の授業でICT機器を活用することで、学習への興味・関心を抱かせやすく、長い時間集中する姿勢が高まってきた。
- かがやきタイムを継続して行うことで、基礎・基本の定着が見られるようになってきた。C R Tの結果（H30）では、全体の平均が全教科、全国以上であった。

	国語	社会	算数	理科
本校	72.8	71.9	74.1	76.8
全国	70.1	71.8	70.4	76.6

- ▲ 自分の考えを述べる時、理由や順序を表す言葉などを使えるようになってきつつあるが、個人差もあり、文がねじれたり、意味が伝わらなかつたりすることもあるため、個別指導が必要である。
- ▲ 発表をする声が小さい子供もいるため、多くの場を経験させ、自信を持たせていく必要がある。

2 視点2【学習環境の整備（家庭学習を含む）】

- 全職員で学力テスト等の分析を行うことで、学級において効果のあった取組を共通実践として位置付けることができた。
- 新聞への掲載や掲載された作品を校舎内に掲示することで、子供の「書く活動」に対する意欲の高まりが見られるようになってきたと同時に、保護者の意識の高揚にもつながっている。
- 「1分間スピーチ」では、課題を与えたり、接続語を使用するよう声掛けしたりすることで、子供たちが相手意識をもって伝えることができるようになってきた。学校行事等における発表においても、相手意識が感じられるようになってきた。
- リーディングバディーをはじめ、様々な読書活動の取組により、本好きの子供が増えている。
- 学級PTAや学級通信等で、学校や学級での実践を伝えていくことで、家庭でも実践（日記等）していこうと努力する姿が見られるようになってきた。
- ▲ 基本的な生活習慣の定着と家庭学習への取組は家庭との連携が大切である。これからも、学校と家庭が一体となって、子供の学力向上を図る体制を継続していく必要がある。
- ▲ 小中一貫教育の視点から、9年間の系統性を考慮した家庭学習について、職員の研修を深めるとともに、家庭へも啓発していく必要がある。

3 視点3【校内研究体制の確立】

- 研究授業に向けて、模擬授業・指導案検討を同じ時間に全職員で考えていくことで、効率化にもつながり、出された成果と課題を共有して日々の教育につなげることができた。
- ワークショップ型の授業研究を積み重ねることで、より活発に意見交換ができるようになり、日々の教育活動に活かされてきた。
- 低・中・高学年部で取り組む内容が共通理解され、共通実践されていた。
- 指導過程が統一され、全学年で発達段階に応じた指導方法が確立されてきている。
- ▲ 校内研究（研究授業）で深められた授業実践の更なる共通理解と共通実践の継続が必要である。

【参考文献】

- ・鹿児島市立西紫原小学校「自分の考えを持ち、伝え合い高め合う子どもの育成」
平成21年度
 - ・眞砂 野裕「クラスの一体感が高まり、笑顔あふれるいきいき学級経営」
小学館 平成25年
 - ・鹿児島市立田上小学校「考える力を育てる学習のしつけ」
小学館 平成26年
 - ・阿久根市立折田小学校「読む力、書く力を身に付け、活かす国語科指導法の研究」
平成25・26年度
 - ・いちき串木野市立照島小学校「学び合い、考えを深め、高め合う子どもの育成」
平成28・29年度
 - ・阿部 利彦「通常学級のユニバーサルデザインスタートダッシュ Q&A 55」
東洋館出版社 平成29年
 - ・文部科学省「小学校学習指導要領」総則編 平成29年告示
 - ・文部科学省「小学校学習指導要領」国語編 平成29年告示
 - ・文部科学省「小学校学習指導要領」算数編 平成29年告示
-
-

(研究同人)

校長	西 浩一	教諭	逆瀬川 博昭
教頭	田向 恵郎	教諭	前田 由美
教諭	有田 英子	助教諭	太田 佳那子
教諭	重信 綾子	教諭	内 敏郎
教諭	後藤 優真	教諭	大原 葉
教諭	吉元 義雄	養護教諭	酒匂 洋子
教諭	竹迫 恵	専門員	池之 浩二
教諭	山崎 岳仁	学校主事	川上 良久
教諭	小山 薫	学校司書	川野 日出美
教諭	今井 俊彦	特別支援教育支援員	前島 佳代子
教諭	平山 拓也	特別支援教育支援員	益満 健太

(旧研究同人)

教頭	石川 雅実	教諭	桑畑 勇二
教諭	阿部 史典	特別支援教育支援員	村田 晶子
教諭	山之口 綱昭		